

■安倍氏と『前九年合戦』

安倍氏は、鎮守府・胆沢城の在庁官人でしたが、律令体制が崩れた10世紀後半頃に力を持つようになりました。当主・頼良は、「六箇郡(奥六郡の別称)の司」と呼ばれ、北上川流域に12の柵を置いて、奥六郡を支配しました。奥六郡とは、胆沢郡、江刺郡、磐井郡、和賀郡、稗貫郡、斯波郡です。頼良が国府・多賀城の所管する領内まで勢力を拡大すると、国府と安倍氏との間にあつれきが生じました。

1051(永承6)年、陸奥守・藤原登任らが軍勢を引き連れて攻撃しましたが、安倍氏が大勝したことで前九年合戦が始まります。「鬼切部の戦い」

同年、源頼義が陸奥守兼鎮守府将軍とし赴任すると、大赦により鬼切部での罪が許された安倍頼良は、将軍と同名のよりよしであることを遠慮し頼時と改名、金品・馬を献上し恭順の意を示します。安倍氏を倒しに来た源頼義にとっては悶々とした月日が流れついに任期満了の頃、頼義の部下とその馬が殺傷され、その濡れ衣が頼時の次男・安倍貞任に着せられる事件が起きました。頭にきた頼

時は「人倫の世あるは、みな妻子のため」と衣川関を閉ざし本格的な合戦が始まります。

1062(康平5)年、なかなか安倍氏を倒せない源頼義は、出羽国豪族・清原氏の加勢により、ついに厨川柵で安倍氏を滅ぼしました。「前九年合戦の終わり」

■鳥海柵の主・安倍宗任

鳥海柵の主は、当主・安倍頼時の三男・安倍宗任と言われています。1776(安永5)年の風土記には「鳥海弥三郎様」との記録があり、古くから頼時の三男・宗任の根拠地であったと考えられていました。共に戦いで活躍した兄・貞任らは処刑されましたが、宗任は流罪となりました。

都に連行された際、貴族に梅の花を見せられ「卑しい蝦夷はこの花の名など知らぬだろう」と侮辱された宗任は和歌で返事をしたといわれています。

わが国の梅の花とは見たれども大宮人は如何言うらん

都人は宗任の教養の高さと聡明さに大変驚いたといえます。その後、宗任は九州へ流されましたが、現在でも九州では安倍氏の末裔とされる人が多く宗任の墓やお祭りが残されています。

■平泉奥州藤原氏へ流れる安倍氏の血脈

姻戚関係を結ぶことで勢力を拡大していった時代、安倍氏も例外ではありませんでした。安倍宗任の妹は藤原経清との間に後に平泉奥州藤原氏初代となる藤原清衡をもうけます。また宗任の娘は二代・基衡の妻となり三代・秀衡の母となりました。平泉の特別史跡・名勝の一つ観自在王院を建立したといわれ宗任譲りの教養と聡明さが窺えます。合戦で滅びてもなお安倍氏の血脈は繋がりに、世界遺産平泉文化が花開いたのです。

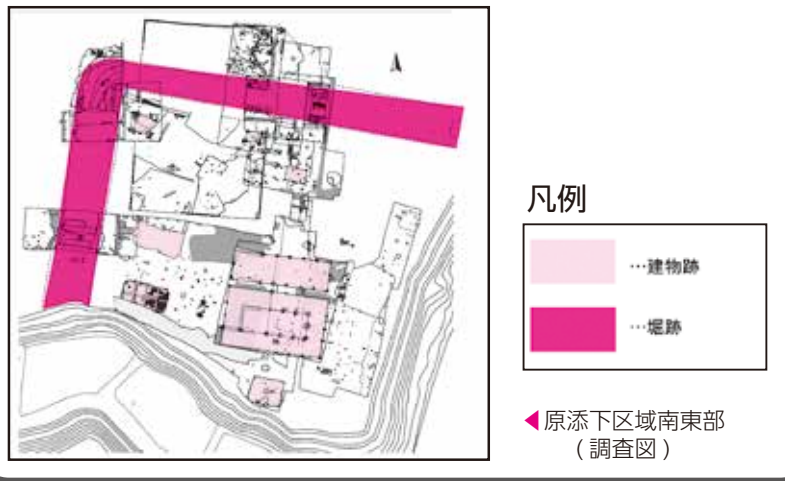


「前九年合戦絵詞」に(国立歴史民俗博物館所蔵)に描かれている安倍宗任

これまでの調査で分かったこと

平成25年の国指定以降、令和2年度までの原添下区域南東部を対象とした発掘調査では、新たに鳥海柵跡で最大級の四面廂付掘立柱建物跡やそれに隣り合うような大型の掘立柱建物跡、そのほか檜状掘立柱建物跡や檜門状掘立柱建物跡、それらを囲うようにL字状の大規模な人工の堀跡が確認されました。掘立柱建物は、地面に直接柱を立てた建物で、四面廂付は、建物の四方すべてに廂が付いている格式の高い建物です。堀跡(SDⅡ)は南北約55m、東西約73m、深さが最大4・3m、断面がV字形の薬研堀で落ちた

ら這い上がれない防御性の高い堀であることが分かりました。堀に囲まれた区画内の建物配置から、当時は非常に稀な建物正面を北向きとする空間であることがほぼ明らかになってきました。大型の建物跡と堀跡の間には広場的な空間があり、堀跡の角には周囲を見渡せるような檜状建物跡、過去の調査で確認された工房跡と併せると祭祀的な空間であり、堅固な防御施設でもある鳥海柵跡の中心的エリアが広がっていたことが少しずつ分かってきました。これには前九年合戦の影響が色濃く映されていると考えられます。



凡例
 ...建物跡
 ...堀跡
 ◀原添下区域南東部(調査図)

—金ヶ崎町の貴重な文化遺産・鳥海柵跡—
 その広大な敷地にはまだまだ未知の歴史が眠っています
 ぜひ現地で歴史ロマンを感じてみてください

| 西暦(和暦) | 主要事項 |
|-----------|--|
| 802(延暦21) | 坂上田村麻呂、胆沢城造営に着手 |
| 805(延暦24) | この頃までに磐井・胆沢・江刺の各郡が建置される |
| 808(大同3) | この年までに鎮守府が多賀城から胆沢城に移される |
| 1051(永承6) | 前九年合戦が起こる。陸奥守藤原登任と出羽介平繁成が安倍頼時を攻撃するが、鬼切部で敗れる。源頼義に陸奥守に任じられる |
| 1056(天喜4) | 人馬殺傷事件の嫌疑が安倍貞任にかけられたため、安倍頼時は衣川関を閉じて戦闘態勢に入る |
| 1057(天喜5) | 安倍頼時が合戦での流矢で負傷。北上川を舟で下り金ヶ崎神社(旧諏訪社)から鳥海柵に戻るが7月27日死去する。安倍頼時の子貞任らの抗戦により、源頼義敗れる |
| 1062(康平5) | 出羽の清原武則が源頼義に味方する。安倍貞任は反撃を試みるが迎撃され小松柵から衣川関・鳥海柵へと逃げる。源・清原軍は北進を続け、安倍貞任らは鳥海柵を捨て厨川柵へと撤退。同年、源・清原軍は厨川柵を攻め落とし、安倍貞任は戦死。安倍宗任は降伏する。前九年合戦終了(安倍氏滅亡) |
| 1063(康平6) | 貞任討伐の功により、清原武則は鎮守府将軍に任ぜられ奥六郡を治める |
| 1069(延久元) | 安倍宗任らの処分について協議され、安倍宗任・家任らは頼義の任国である伊予国に移す命令を出す |
| 1083(永保3) | 後三年合戦が起こる。清原真衡と清原清衡・家衡が対立し、鎮守府将軍となった源義家が介入する |
| 1087(寛治元) | 源義家・清原清衡が清原家衡らを討ち、後三年合戦終わる |
| 1095(嘉保2) | この頃、藤原清衡が江刺郡豊田館から磐井郡平泉に拠点を移す |
| 1124(天治元) | 藤原清衡が中尊寺金色堂を建立する |

10周年関連事業

国指定10周年記念講演会

鳥海柵跡国指定10周年を記念し、講演会を開催します。これまでの歩み、平泉藤原氏との繋がりから見える本史跡の歴史的価値を考えます。

■日時 10月14日(土) 午後1時30分~3時30分

■場所 中央生涯教育センター

■講師 八重樫 忠郎さん(県立平泉世界遺産ガイダンスセンター長)

■申込先 中央生涯教育センター文化財係(☎44-3123)

①てくてくとのみファミリー

ウォークラリーしながら、鳥海柵跡を身近に感じてもらうイベントです。

▶対象: 家族ペア(子ども: 4歳児~小学生) ▶日時: 9月9日(土) 午前10時~11時 ▶定員: 20組 ▶申込期限: 8月31日(木)

②ぐるっと鳥海柵跡めぐり

史跡内をめぐり、鳥海柵跡について学びます。

▶対象: 全年齢 ▶日時: 9月27日(水) 午前10時~11時30分 ▶定員: 20人 ▶申込期限: 9月20日(水)

【①②共通】▶申し込み方法: 電話またはURL (https://logoform.jp/form/QZQz/310868)、

二次元バーコードから申し込みください。

応募フォーム▶



■申込先 金ヶ崎要害歴史館(☎42-3060) 月曜休館